

普通科 人文社会科学38班

手話の法則

班員 久保田季花 西ヶ野杏奈
新名健大 山本瑠星

指導者 今仁延彦先生
森淳子先生

研究の動機

手話の動作は言葉の意味から成り立っているのかを調べ、少しでもいろいろな人に手話に興味をもってもらうため。

研究の目的

少しでも色々な人に手話に興味をもってもらうこと。

先行研究

<https://www.city.hita.oita.jp/material/files/group/18/27-4.pdf>

分かっていること

- ・手話は世界共通ではない
- ・フランスのド・レペー神父が最初にパリで手話による教育を始めた。
- ・古河太四郎氏が手話を確立

分かっていないこと

- ・手話の成り立ち
- ・なぜ手話は作られたのか

研究方法

- ①既存の研究や文献を調査して、手話の法則に関する知識を獲得する。
- ②実際に専門の知識のある人に話を聞く。
- ③収集したデータを分析し手話のパターンを特定する。
- ④分析結果を解釈して手話の法則について考察する。



必要な道具

- ・パソコン
- ・手話の本



仮説

手話の1つ1つの動作はその言葉の意味から成り立っていると考える。



研究計画

4～5月	1人、手話の動詞5個、名詞5個をそれぞれ覚える。調べた手話を共有。
6～7月	調べた手話が言語から来たものか、手話のために作られた動作なのか考察。 手話サークルの方に連絡を取る。
夏休み	実際に手話サークルの方にお話を聞きに行く (よく使う手話や会話表現も聞く)
9～10月	調べたことをまとめる。結果を踏まえて皆で考察する。
11～12月	ポスター作り開始！

参考文献

長南浩人:聴覚障害者の日本語指導における手話の使用に関する実験的研究